

2011.12.14

東北学院大学

# 被災地での学習支援の手引き

教職課程センター

災害ボランティアステーション

## ① 被災地での学習支援ボランティアの意義

東日本大震災から9ヶ月。気がつけば、もう私たちの多くは、大震災以前の日常をほぼ取り戻しているようにみえます。しかし、言うまでもなく、仮設住宅で暮らす人々、そして教材も教室も教員も十分に無い中で日々学習をせざるを得ない子どもたちがたくさんいます。学びの機会が十分な環境の下で十分に与えられないということは、今この時だけの問題ではなく、何年か先の子どもたちの人生にまでも大きな影響を与えかねません。学びが十分な環境でできなかったことで、学ぶこと進学することに対する意欲を無くしてしまう子どもたちもいるかもしれません。学びが足りなかったことで、人生の選択肢が狭まってしまうこともあり得るでしょう。けれども、もし教材や教室が足りなくても、傍で寄り添って一生懸命教えてくれる誰かがいたらどうでしょう。担任の先生は他の子のことで手一杯だったとしても、代わりに話を聞いてくれる、わからないところを教えてくれる、一緒に考えてくれる誰かがいてくれたらどうでしょう。そのことが、教材以上の、教室以上の、学びへのひいては生きることへの動機づけには、想像以上に大きな糧となるのです。

ボランティアとは、そもそも自らの生活や自分自身を犠牲にしてまで行うべきものではありません。ただ、自分の生活に少しでも時間的・経済的余裕があるとすれば、子どもたちの学びを、そして生きる力を支えるボランティアに参加してみることは、あなた方自身にとっても、大きな意義があると思います。

ボランティア精神における「人を助ける」ということは、困っている人に手を貸すことで、その困っている人が欲求を満たしたり、成長したりすることを目的としているのですが、副次的な作用が生じるのです。「人を助ける」ことで、私たちはその困っている人にとって「必要な人」となります。身内や親密な誰か以外の他者に、必要とされる喜びを経験することは、おそらく例外なく人に自信を与え、「生き甲斐」や「自分の存在意義」を感じるきっかけを与えてくれることでしょう。

また、教員を志望する学生にとっては、言うまでもなく、自らの成長のための得難い機会となるでしょう。宮城・岩手・福島で教員になろうと考えている学生にとっては、まさに、「明日は我が身」の状況です。被災地で教鞭をとることになる可能性は低くありません。「お互い様」と思って、今から手助けをすることも大切ですし、それ以上に、

あなた方が実際に教員になって、全責任を負わなければならない立場になって初めて、被災した子どもたちと接するのでは大きなリスクを伴います。心のケアも含めてです。しかし、学生ボランティアという立場で、いわば、第三者の立場で子どもたちと接し、教員と接することで、被災地の子どもたちへの接し方、留意すべき点等について、事前に学ぶことが可能となるでしょう。自然災害による被災は、いつ何時自らの身に降り掛かるかわかりません。千葉・埼玉・東京・神奈川等どこで教員になるにしても、今回のようなケースから学ぶべきことはたくさんあるはずです。

現地で活動し、肌で感じなければ得られない経験・知識というものがあります。そして、そういう経験こそが、皆さんにとって生きた知識や知恵となっていきます。ぜひ、積極的に参加してみてください。

## ②学習支援ボランティアの情報提供

### A.本学の災害ボランティアステーションが募集するボランティア活動

すでに実施されているボランティア活動であり、ボランティアステーションのHPに情報が掲載されていますが、これからは教職課程センターからも登録学生の皆さんに情報を提供していきます。

【ボランティアステーションのHPアドレス】：

<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/volunteer/>

⇒ Aについての資料（1種類）

### B.宮城教育大学「教育復興支援センター」と連携して行うボランティア活動

宮城県教育委員会・仙台市教育委員会等と連絡をとって宮教大「教育復興支援センター」が実施しているボランティア活動です。県内の複数の国私立大学や全国の教育系大学がすでに参加しており、本学もこれから参加する活動です。

学習支援とは、被災地のボランティア依頼校において放課後の学習支援を行ったり、授業の補助を行ったりするものです。詳しくは、下記の資料を読んでください。

⇒ Bについての資料（3種類）

### ③ 参加条件

下記の条件を充たさない、守れない場合は参加が認められません。

- 本学の教職課程を履修する1年生～4年生、大学院生
- 服装はボランティア依頼校の要請にしたがうこと。  
例えば、華美なものは避け、児童・生徒と接しやすい服装
- 茶髪・金髪・ピアスは禁止。(児童生徒に好ましくない刺激を与えてはいけません。ピアスは自分にとっても危険です。)
- 児童生徒のメルアド・携帯番号等を聞かないこと。児童生徒からメルアド・携帯番号等を聞かれても絶対に教えないこと。
- 活動を通じて知ることになった児童生徒の個人情報、他言しないこと。

### ④ ボランティア保険について

ボランティア登録した学生の皆さんには、本学が所定の保険への加入手続きを行います。具体的には、登録用紙が教職課程センターからボランティアステーションへと回り、ボランティアステーションが保険手続きを行います。ただし、手続きは皆さんがボランティア活動を開始するときに行います。登録はしたが実際の活動はしなかったという場合には、保険はかかりません。

### ⑤ 登録のための手続き

a 登録用紙の提出：必要事項を丁寧に記入。とくに、アドレス欄は丁寧に書いてください。

b 志望動機文の提出：

なぜボランティアを志望するか、自分の考えを具体的に書いてください。字数は800字程度。A4用紙にプリントアウトして提出。用紙上部に学科名・学籍番号・氏名を明記すること。教職課程センター所員による書類審査を経て、登録手続き完了となります。

書類（aとb）の提出先は、土樋と泉の教職課程センター、多賀城は学務係です。

⇒**提出期限**：書類（aとb）は **12月19日まで**。登録用紙のみの場合は **16日まで**。

- \* 今年度または昨年度に、仙台市スクールサポートボランティアあるいは小学校外国語ボランティア等の活動を行った方は、志望動機文（上記b）の提出は不要です。登録用紙のみを提出してください。
- \* 「説明会」を欠席した方は、説明会の録画を視聴してから、上記二つの書類を提出してください。加えて、教職課程センター所員が面接を行います。書類提出時に、職員と面接の日時を打ち合わせてください。

## ⑥連絡方法と活動の流れ

- 本学の災害ボランティアステーション（A）あるいは宮教大の教育復興支援センター（B）から募集があった場合は、皆さんのメールアドレスに連絡します。携帯メールの場合は、教職課程センターのアドレス\*を受信拒否しないよう設定にしてください。活動を希望する場合には、活動先（活動名）、自分の属性（学科・番号・氏名）、活動日（全日程に参加できない場合は、参加できる日を書く）を明記して、下記の土樋教職課程センターまでメールしてください。
- 活動希望申込のメールは、教職課程センターから、募集先（AorB）に届けられます。活動が決定した場合には、教職課程センターから知らせますので、下記の要領で活動の準備に取りかかってください。
- ★ 約束したボランティア活動は休まないこと。ボランティアを依頼した学校も子どもたちも皆さんを待っています。やむを得ず休まざるをえない場合には、速やかに、下記の連絡先までご連絡下さい。

\*土樋教職課程センターのアドレス：[ksshien@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:ksshien@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)

電話：022-264-6397

### 【ボランティアステーション（A）が募集する場合】：

ボランティアステーションの指示にしたがって活動します。事前の打ち合わせにおいて、集合場所・交通手段・服装・その他の注意事項を十分に確認して活動に入ってください。

\*ボランティアステーションのアドレス：[tgvolu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:tgvolu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)

電話：022-264-6521

### 【宮教大教育復興支援センター（B）が募集する場合】：

宮教大教育復興支援センターの指示にしたがって活動します。事前研修が宮教大で行われるので、それに必ず出席し、集合場所・交通手段・服装・その他の注意事項を十分に確認して活動に入ってください。遠隔地の場合は宿泊が必要となる場合もあります。それに伴う費用については宮教大に確認してください。

\*宮教大「教育復興支援センター」：fukkou@adm.miyakyo-u.ac.jp

電話：022-214-3640

### 【活動が終了したら】

ボランティア活動終了後は、所定の活動報告書を土樋教職課程センターまで（メールか用紙）必ず提出してください。活動報告書は、土樋教職課程センターのHP（下記アドレス）からダウンロードしてご利用ください。

<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/facilities/center/teaching.html>

## ⑦その他

・ボランティア先が小学校であれば、勉強のことで児童に何を尋ねられても対応できると思いますが、中学校・高等学校において教員の授業補助を行うような場合には、教科が問題になることがあります。募集条件をよく確認しましょう。

・ボランティア先で、事故が起きたり、困ったことがあったときには、すぐ当該校の教員に報告しましょう。土樋教職課程センターにも連絡するのを忘れないこと。ボランティア活動について相談したいことがあった場合には、遠慮なく土樋教職課程センターに連絡してください。センター所員が随時対応します。

### ボランティアの持ち物は？

- ① 筆記用具(赤ペン・青ペン)
  - ② 上履き
  - ③ メモ帳
- (必要に応じて)
- 教科書・参考書・地図

